

令和元年5月31日



みんな輝け和泉っ子

和泉

6月号

読書の楽しみ

副校長 森 飛鳥



先日、2年生のクラスに入る機会があり、子どもたちと「和泉っ子図書館」へ行きました。読みたい本を見つけられず、うろうろする子がいないことに驚きました。低学年の子どもにとって、広い図書館のたくさんの本の中から1冊を選ぶというのはとても難しいことです。読みたい本がどの場所にあるのか知っているのは、今までに何度も「和泉っ子図書館」に通ってきたからでしょう。私が「ね

ずみくんのうんどうかい」(ポプラ社)を読んでいると、「シリーズいっぱいあるよね。」「絵本コーナーにあるよ。」と教えてくれた子もいました。「この本が好きなの。」とお気に入りの本を紹介してくれた子とは、一緒にその本を読んで楽しみました。

私は子どもの頃から読書が大好きでした。小さい頃は「ぐりとぐら」「ぐるんぱのようちえん」(共に福音館書店)などお気に入りの絵本を繰り返し読みました。小学校に入ると学校の図書室に通い、シリーズで読んだり、同じ作者の本を読んだりするようになりました。6年生の時に大好きだった「若草物語」は、海外の本なので、訳者によって違うかもしれないと7種類の「若草物語」を読んだことを今でも覚えています。そして、学校の図書室の本だけでは足りなくなり、自転車で市立図書館にも通いました。家族で一人6冊ずつ借りてきていました。帰ってくると母は、大きなカレンダーの裏に借りてきた本の題名を表にしてくれました。そこに「○」をつけるのが嬉しくて、自分が借りてきた本だけでなく、弟や妹が借りた本も全部読んでいました。

「和泉っ子図書館」の廊下の掲示板に、「先生のお気に入り」というコーナーがあります。子どもたちが、「読んだことある!」と言いながら見えています。「和泉っ子図書館」の中の展示コーナーから「先生のお気に入り」の本を借りていく子もいます。お気に入りの本1冊に出会えると、次の1冊また次の1冊と本を手取るようになります。読書はいつでもどこでもできます。生涯楽しめます。子どもたちが、そんな本にたくさん出会えるよう、読書の楽しさを伝えていけたらと思っています。

6月は、雨が多くなり、室内で過ごすことが多くなると思います。今年度の読書感想文課題図書も届きました。ぜひ、時間を決めて、親子読書を楽しんでください。